

2006年3月期事業報告書

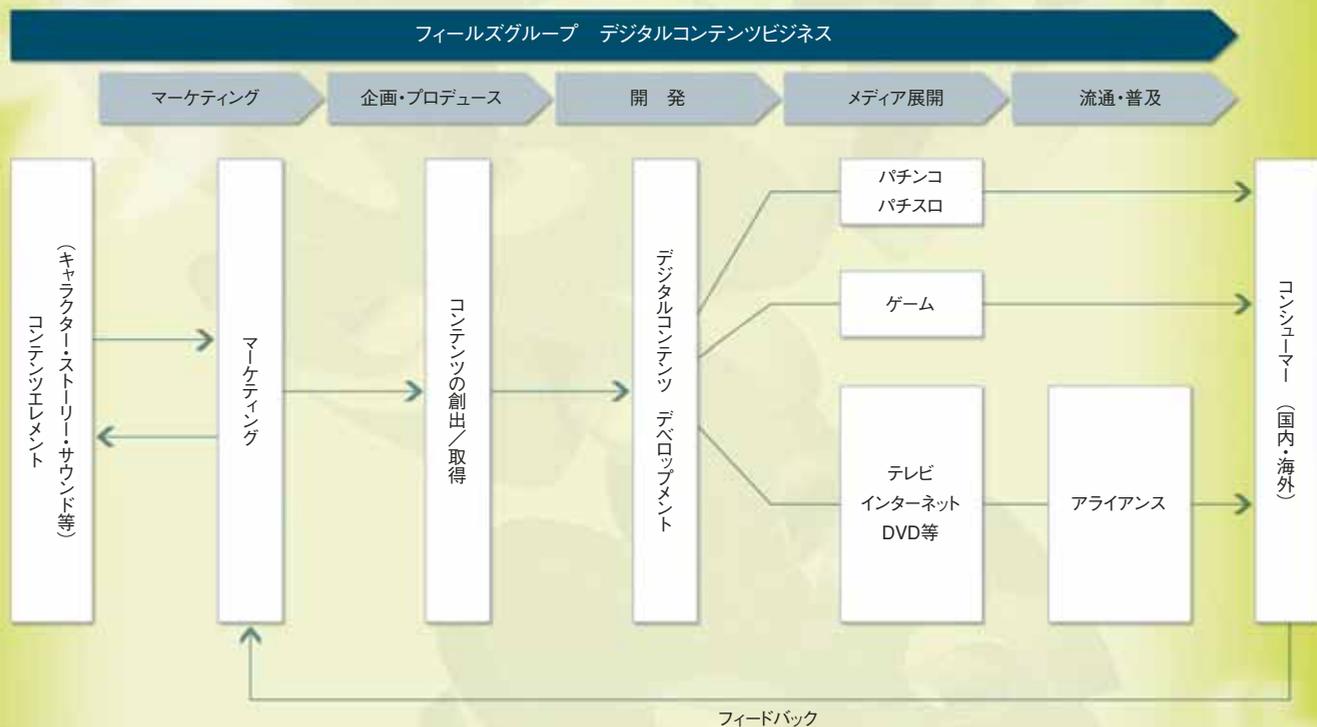
2005年4月1日～2006年3月31日

2006

フィールズ株式会社 証券コード:2767

デジタルコンテンツビジネス。

＜すべての人に最高の余暇を＞の企業理念のもと、
パチンコ・パチスロ遊技機の販売を収益基盤に、自ら創出または取得したライセンスを活かした
デジタルコンテンツを企画・開発し、各メディアへ展開しています。



さらなる飛躍に向けて。

「点検・検証・改善の期」と 位置づけ様々な施策を展開。

当社は業界屈指の全国販売網を有する遊技機流通商社として、メーカー・ホール双方のニーズに応えることで、その発展に貢献してきました。現在では取得した著作権に付加した商品企画を提携メーカーに供給し、商品化された遊技機を自ら市場に流通させるファブレス企業として業界における独自の地位を築いています。さらに、こうした確固たる事業基盤をベースに、一次コンテンツの創出や商品化権取得を遂行し、戦略的なマーケティングに基づく綿密な展開設計によりパチンコ・パチスロ、ゲームをはじめとする多様なメディアにコンテンツを提供する事業を志向しています。

2006年3月期は、こうした一層の飛躍期を迎えるにあたり、各事業と組織体制をあらゆる角度から「点検・検証・改善」する期と位置づけ、各種課題に取り組んできました。具体的には、著作権取得から商品企画、画像開発までを一貫して担う開発本部やマーケティング室を中心とする人員増強、さらに将来の販売網の拡大に備えて業務効率化のための情報化投資を積極的に推進しました。またコンプライアンスやコーポレート・ガバナンス体制の強化充実に取り組みました。

営業状況については、パチンコ遊技機販売において「CR新世紀エヴァンゲリオン・セカンドインパクト」が前作を超える大ヒット(当社創業以来の最高販売台数)を記録したのをはじめ、提携メーカー各社との商品化権および企画・画像の供給というビジネスフレームを軌道に乗せることができ、「CRMマリリン・モンロー」「CR明日があるさ よしもとワールド」「C

R魁!!男塾」などが順調な売れ行きとなりました。パチスロ遊技機販売においては、規則改正の影響で新機種適合が遅れるなどの事態を招きましたが、全国市場に精通した当社のマーケティング分析を基に、販売量の最大化をめざし最適販売時期にタイミング良く市場投入した「俺の空」が、当社イメージキャラクター・清原和博氏を起用したテレビCMの効果と相まって、10万台を超える大ヒットとなりました。この他、業界初の新

規則対応機「新世紀エヴァンゲリオン」も新規則対応機としては業界全体で最高の販売台数となりました。

なお、ゲーム事業の規模拡大に伴い、2006年3月期より、事業別セグメントとして、「パチンコ・パチスロ(PS)フィールド」「ゲーム・フィールド」「その他フィールド」と記載しました。今後の当社のデジタルコンテンツビジネス展開が、より投資家の皆様にご理解頂きやすくなるものと存じます。



代表取締役社長 山本 英俊

デジタルコンテンツの多元的利用を 推進すべく、様々な施策を実施。

当社は、〈すべての人に最高の余暇を〉を企業理念として掲げ、かねてよりデジタルコンテンツの多元利用を市場における競争優位性構築に向けた成長戦略と捉え、その推進に注力してきました。コンテンツビジネスの本質は、商業的に価値の高いコンテンツを創出し、その多元的活用を図る点にあります。この点を踏まえ、現在、当社はパチンコ・パチスロ遊技機の販売における圧倒的な収益力を強固な基盤とし、一次コンテンツの創出と多元的な二次利用展開の推進をめざして関連会社やパートナー企業との連携・強化を図っています。

PS・フィールド

2006年3月期は、安定的かつ魅力的な商品供給体制を構築すべく、商品企画・開発の人材を積極的に採用しました。また、販売力を拡充すべく、人員補強や熊本支店の新設などに取り組み、“営業社員400名、全国30支店”体制を確立し、今まで以上に安定的な商品投入とその拡販を可能とする体制を築きました。

今後は、「新世紀エヴァンゲリオン」に匹敵する戦略的キラーコンテンツの企画開発に注力し、複数の大型商品を基軸とする販売ラインアップの拡充を図ります。さらに、獲得したライセンスを、パチンコ・パチスロ機に限らず、ゲームなど様々なメディアへマルチユースしていくことをめざします。また、営業社員の教育研修に注力して、顧客ホールから厚い信頼を寄せられる販売組織を創り上げていくことで、業界内におけるプレゼンス

デジタルコンテンツビジネスの深耕・進化



をますます高めていきたいと考えています。

ゲーム・フィールド

(株)ディースリー(以下ディースリー)は、独自に展開している「SIMPLEシリーズ」やグローバルコンテンツを使用したゲームソフト、当社のパチンコ・パチスロ機のシミュレータ・ゲームソフトなど、バラエティに富んだゲームソフトを企画・販売しています。2006年3月期は、2005年3月期に大ヒットしたパチンコ機「CR新世紀エヴァンゲリオン」をはじめ、シミュレータ・ゲームソフトのシリーズ化が軌道に乗るなど、当社とのコンテンツ共有が進みシナジー効果が現れつつあります。

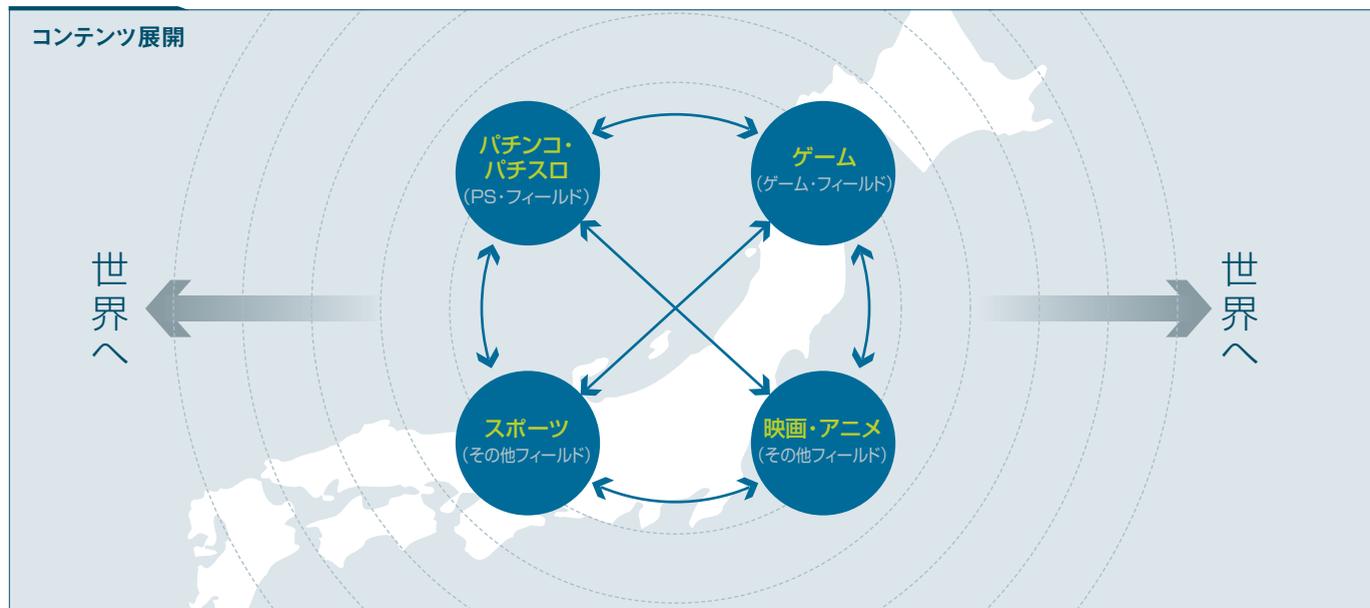
2007年3月期においては、グローバルコンテンツの一端として、フルプライス大型作品「フラッシュ アウェイ」を北米市場で先行投入

するほか、「CR新世紀エヴァンゲリオン・セカンドインパクト」などのシミュレータゲームを積極的に展開するなど、当社との双方向のコンテンツ創出・共有化を推し進め、経営基盤の強化を図っていきます。

その他フィールド

映画・出版・スポーツ・アニメなどの分野で、一次コンテンツの創出や二次利用を目的とする商品化権を取得し、コンテンツの多元展開を図る収益力の高いビジネスモデルの確立に努めています。

今後は、出版・映画・音楽のメディアミックスに取り組む(株)角川春樹事務所やスポーツコンテンツビジネスで先駆けるジャパン・スポーツ・マーケティング(株)(以下、JSM)をはじめ、国内外の多彩なアライアンスパートナーと連携し、コンテンツビジネス市場を牽引していきます。



JSMは、国境を超えて多くの人々に夢を与え感動をもたらすスポーツの力に着目し、スポーツコンテンツ市場の創造を目的に、当社子会社3社が事業統合を行い発足しました。野球、サッカー、ゴルフなどのメジャースポーツを中心にイベント運営から放映権ビジネスまでを手がけるとともに周辺コンテンツの商品化権取得活動を含むライセンス事業、アスリートのマネジメントを通じてその能力を最高に発揮させることを目的とするアスリート事業、さらにはスポーツジムの「トータルワークアウト」を基盤に、多様な消費者の人生の価値観をグレードアップさせるソリューション事業の3つの事業領域を複合させた、世界にも類例が見られないビジネスモデルの構築をめざしています。

内部管理体制の強化を図り、グループ価値向上をめざす。

このような事業拡大に向けた体制の検証・改善を図る一方で、内部管理体制の充実についても重要な経営課題と位置づけ、引き続き様々な施策を展開しています。具体的には、本社17部門、全国29支店、子会社4社を対象に、監査室による内部監査を実施しました。そのほか、内部管理体制の充実に向けた業務改革プロジェクトの立ち上げや社内情報の共有化を目的する会議体の整備見直し、監査室、監査役会および会計監査人の三者間での意見交換会の開催など、継続的に内部管理体制の充実に取り組んでいます。

当社は今後も企業理念の実現をめざし、フィールズグループのグループ価値向上に努めていきます。今後ともご期待下さい。

JSMのビジネスモデル

ワールドワイドなスポーツコンテンツのプロデュース・オペレーション・プロバイディング・PSを含む多様なメディア展開

ライセンス事業

JSM
JAPAN SPORTS MARKETING

アスリート事業

ソリューション事業

スポーツ興行の根底であるジュニア層に影響力の強いアスリートをマネジメント

トータルワークアウトの全国展開を通じ、人生を濃密に生きるためのソリューションを提供

コンテンツ多元化スキーム



新セグメントのご紹介

～2005年3月期

遊技機販売事業

その他事業

2006年3月期～

事業区分	事業内容	会社名
PS・フィールド	遊技機の企画・開発及び販売 遊技機のメンテナンス 遊技機の仕入	当社 フィールズジュニア株式会社 株式会社ロデオ ^(注1)
	遊技機ソフトの企画・開発	株式会社デジタルロード
ゲーム・フィールド	家庭用ゲームソフト等の 企画・開発並びに販売	株式会社ディースリー・パブリッシャー (現 株式会社ディースリー) 株式会社エンターテインメント・ソフトウェア・ パブリッシング D3Publisher of America, Inc. D3Publisher of Europe Ltd. D3DB S.r.l.
その他フィールド	その他コンテンツ事業	ジャパン・スポーツ・マーケティング株式会社 株式会社角川春樹事務所 ^(注1)
		ホワイトラッシュチャームズジャパン株式会社 株式会社データベース ^(注2) 株式会社イー・アクティブ ^(注2) ジー・アンド・イー株式会社 ^(注3) 株式会社エイブ ^(注2)

(注) 1.持分法適用関連会社 2.非連結子会社 3.持分法を適用しない関連会社

TOPICS 1

グループのイメージキャラクターに
清原和博さんを起用。

清原さんは、日本を代表するスラッガーとして知られ、その魂のこもったプレーには老若男女を問わず幅広い人々から大きな共感をもって迎えられています。こうした清原さんの魅力とコラボレートすることで、エンタテインメント・ファン人口の裾野拡大に努めるフィールズグループの企業姿勢を広くアピールしていきます。



TOPICS 2

業界初のゲーミング&
エンタテインメントビジネススクールを開講。

パチンコ・パチスロ市場が今後さらに成長・拡大していくためには、業界が蓄積してきた経験を引き継ぎ、新たな発想で次の時代を牽引していく優秀な人材が必要不可欠です。こうした想いのもと、業界のリーディング企業である(株)SANKYO、サミー(株)との共同出資により、スクールを設立しました。総合エンタテインメント業界で能力を発揮できる人材の育成を図り、業界の発展に寄与していきます。



当連結会計年度の概況

当連結会計年度における我が国経済は、原油価格の高騰など依然として不透明感が残る状況にありましたが、企業収益の改善に伴う設備投資の増加、雇用情勢の改善、日銀による金融政策の転換などにより国民各層に景況感の好転が定着し景気回復基調であることが次第に明らかになってきました。

当社の主力事業であるパチンコ・パチスロ市場では、ホールの大型化がますます進み、全国パチンコホールの遊技機総設置台数は500万台弱と安定した規模を維持しています。こうした状況下、遊技機販売市場は、大型店を中心とする熾烈な集客競争が旺盛な新機種入替需要を後押しするという構造が定着し、パチンコ新機種年間販売台数は累計400万台を超え、パチスロは一昨年の規則改正の影響から一時的に発売機種数は減少したものの1機種あたりの販売台数は伸び、全体としては総設置台数を大きく上回る販売台数を示しています。

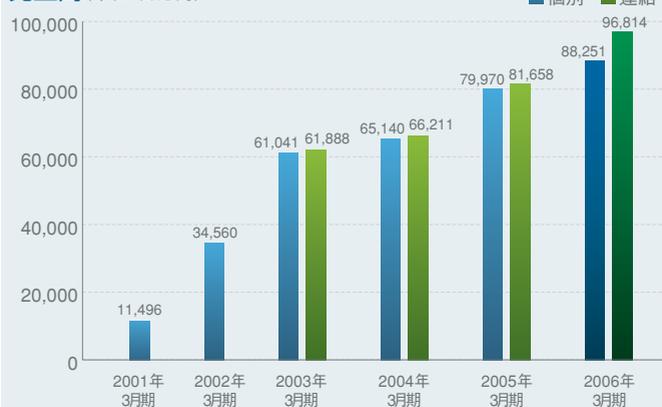
こうした環境下、当社はパチンコ遊技機販売においては、「CR新世紀エヴァンゲリオン・セカンドインパクト」が前作を超える大ヒット、当社創業以来の最高販売台数を記録したのをはじめ、提携メーカー各社との商品化権および企画、

並びに画像の供給というビジネスフレームが軌道に乗り「CRマリリン・モンロー」「CR明日があるさ よしもとワールド」「CR魁!!男塾」などが順調な売れ行きを見せました。パチスロ遊技機販売においては、規則改正の影響で新機種適合が遅れるなどの事態を招きましたが、全国市場に精通した当社のマーケティング分析を基に、販売量の最大化をめざし最適販売時期にタイミング良く市場投入した「俺の空」が、当社イメージキャラクター・清原和博氏を起用したテレビCM効果などにより、10万台を超える大ヒットとなりました。この他、業界初の新規則対応機「新世紀エヴァンゲリオン」も新規則対応機としては業界全体で当連結会計年度中最高の販売台数となりました。

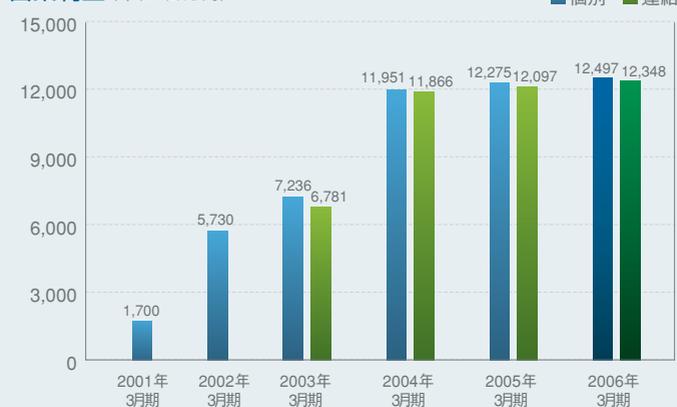
こうした実績を受けて、遊技機売上高は旺盛な需要を背景に競争力に優れた商品を投入したことにより、また遊技機手数料売上高においても販売台数の増加によって前連結会計年度を上回る伸長を見せました。販売管理費については、販売促進費のウエイトが高いパチスロ機販売において市場環境を見据えつつ販売機種数を絞り込んだことを主要因に販売促進費が低減しましたが、ディースリー、JSMの海外事業進出支援を主目的とした広告宣伝費の増加、PS企画開発体制の充実並びに提携メーカー数の増加を受けた業

財務ハイライト

売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



務効率向上のための人員増および業務委託費の増加などにより、前年を上回る水準となりました。

その結果、2005年8月26日発表の修正計画に対し売上高5.5%増、経常利益18.0%増となり、売上高は96,814百万円（前連結会計年度比18.6%増）、経常利益は13,127百万円（同5.2%増）、当期純利益は7,085百万円（同2.3%増）となりました。

次期の業績の見通し

当社グループはパチンコ・パチスロの販売および自ら創出または二次利用目的に取得したライセンスをベースにデジタルコンテンツを企画・開発し各メディアに展開しています。

PS・フィールドにおいては、総設置台数193万台余りの規模に達するパチスロ遊技機が、今後約1年間にわたり旧規則対応機から新規則対応機へシフトしていきます。当社では市場ニーズを的確に把握し、引き続き最適時期に最適商品を投入することで販売数量の最大化を図っていきます。パチンコ遊技機においては、「新世紀エヴァンゲリオン」に匹敵する戦略的キ

ャーコンテンツの企画開発に注力しており、大型商品を基軸とする販売展開を実施していきます。

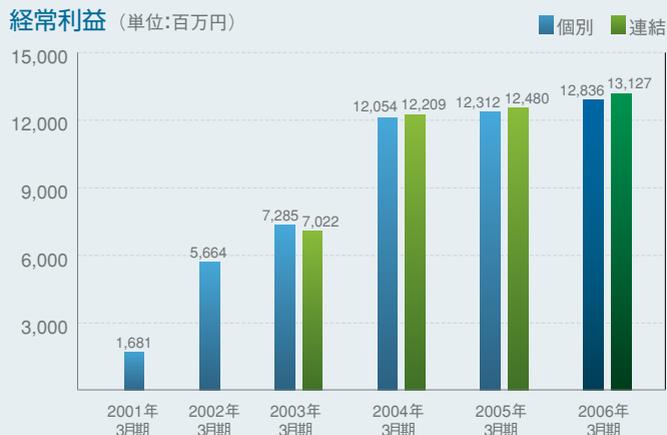
ゲーム・フィールドにおいては、ディースリーがかねてより開発を進めてきたフルプライス大型作品「フラッシュアウト アウェイ」を下期に北米市場で先行投入の予定です。また「CR新世紀エヴァンゲリオン・セカンドインパクト」などのシミュレータゲームを積極的に展開し、経営基盤の強化を図っていきます。

その他フィールドにおいては、設立2年目を迎えるJSMはライセンス事業、アスリート事業、ソリューション事業の3本柱の育成に力を注ぎ、他に類例を見ないビジネスモデルの完成に向けて邁進していきます。

また、持分法適用関連会社の角川春樹事務所は、書籍および若年女性向けを中心とした雑誌の出版、および映画・DVDの企画・制作を推進していきます。

こうした積極的な事業展開により、2007年3月期の連結業績予想は、売上高は106,960百万円（前連結会計年度比10.5%増）、経常利益は14,070百万円（同7.2%増）、当期純利益は7,400百万円（同4.4%増）を見込んでいます。

経常利益（単位：百万円）



当期純利益（単位：百万円）



連結貸借対照表

(単位:千円)

科 目	前連結会計年度 2005年3月31日現在	当連結会計年度 2006年3月31日現在
資産の部		
流動資産	57,000,705	69,879,772
現金及び預金	13,326,256	15,777,313
受取手形及び売掛金	37,667,536	46,385,995
有価証券	5,000	—
たな卸資産	480,171	1,568,986
繰延税金資産	267,886	526,855
その他	5,340,996	5,769,846
貸倒引当金	△87,140	△149,225
固定資産	15,583.841	17,676,761
有形固定資産	4,857,578	4,689,155
無形固定資産	1,706,367	2,752,383
投資その他の資産	9,019,895	10,235,222
投資有価証券	5,545,899	6,991,655
長期貸付金	382,300	296,238
敷金保証金	2,201,142	2,298,879
その他	568,889	442,485
繰延税金資産	500,672	360,424
貸倒引当金	△179,008	△154,461
資産合計	72,584,547	87,556,534

(単位:千円)

科 目	前連結会計年度 2005年3月31日現在	当連結会計年度 2006年3月31日現在
負債の部		
流動負債	33,310,107	42,526,511
買掛金	27,479,525	34,869,095
短期借入金	656,600	730,000
1年内返済予定長期借入金	341,768	214,668
1年内償還予定社債	—	110,000
未払法人税等	2,685,881	3,733,977
賞与引当金	20,000	25,000
その他	2,126,332	2,843,769
固定負債	4,185,508	4,007,730
社債	500,000	490,000
長期借入金	593,165	366,997
退職給付引当金	139,140	162,648
役員退職慰労引当金	568,700	607,100
預り保証金	2,378,609	2,380,985
その他	5,893	—
負債合計	37,495,616	46,534,242
少数株主持分		
少数株主持分	1,662,657	1,610,739
資本の部		
資本金	7,948,036	7,948,036
資本剰余金	7,994,953	7,994,953
利益剰余金	17,133,487	22,726,469
その他有価証券評価差額金	349,796	735,622
為替換算調整勘定	—	6,470
資本合計	33,426,273	39,411,552
負債、少数株主持分及び資本合計	72,584,547	87,556,534

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 2004年4月1日~2005年3月31日	当連結会計年度 2005年4月1日~2006年3月31日
売上高	81,658,011	96,814,364
売上原価	56,905,614	67,077,197
売上総利益	24,752,397	29,737,167
販売費及び一般管理費	12,655,173	17,389,011
営業利益	12,097,224	12,348,156
営業外収益	655,950	828,495
営業外費用	272,602	48,966
経常利益	12,480,571	13,127,685
特別利益	346,893	218,451
特別損失	266,618	311,254
税金等調整前当期純利益	12,560,847	13,034,882
法人税、住民税及び事業税	5,403,841	6,588,353
法人税等調整額	217,712	△383,530
少数株主利益又は 少数株主損失(△)	12,502	△255,935
当期純利益	6,926,791	7,085,994

(注) 会計処理の変更
(固定資産の減損に係る会計基準)

当連結会計年度から「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号)を適用しております。

これより税金等調整前当期純利益が56,819千円減少しております。

なお、減損損失累計額については、改正後の連結財務諸表規則に基づき当該各資産の金額から直接控除しております。

連結剰余金計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 2004年4月1日~2005年3月31日	当連結会計年度 2005年4月1日~2006年3月31日
資本剰余金の部		
I 資本剰余金期首残高	1,342,429	7,994,953
II 資本剰余金増加高		
1.増資による新株の発行	6,652,524	—
III 資本剰余金期末残高	7,994,953	7,994,953
利益剰余金の部		
I 利益剰余金期首残高	11,631,695	17,133,487
II 利益剰余金増加高		
1.当期純利益	6,926,791	7,085,994
III 利益剰余金減少高		
1.配当金	1,340,000	1,388,000
2.役員賞与	85,000	105,000
3.連結子会社増加に伴う 剰余金減少額	—	12
IV 利益剰余金期末残高	17,133,487	22,726,469

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 2004年4月1日~2005年3月31日	当連結会計年度 2005年4月1日~2006年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,965,857	6,164,786
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,257,154	△2,224,610
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,177,881	△1,540,544
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,913	50,037
現金及び現金同等物の 増加・減少(△)額	7,888,497	2,449,668
現金及び現金同等物の期首残高	5,437,758	13,326,256
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加・減少(△)額	—	1,388
現金及び現金同等物の期末残高	13,326,256	15,777,313

個別貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	前事業年度 2005年3月31日現在	当事業年度 2006年3月31日現在
資産の部		
流動資産	52,562,541	64,224,724
固定資産	15,791,524	18,079,916
有形固定資産	4,325,058	3,911,388
無形固定資産	777,906	997,317
投資その他の資産	10,688,559	13,171,210
資産合計	68,354,065	82,304,640
負債の部		
流動負債	31,824,942	39,925,732
固定負債	3,114,255	3,136,600
負債合計	34,939,197	43,062,332
資本の部		
資本金	7,948,036	7,948,036
資本剰余金	7,994,953	7,994,953
利益剰余金	17,122,082	22,563,695
その他有価証券評価差額金	349,796	735,622
資本合計	33,414,868	39,242,308
負債・資本合計	68,354,065	82,304,640

(注) 会計処理の変更

(固定資産の減損に係る会計基準)

当期から「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号)を適用しております。これにより税引前当期純利益が56,819千円減少しております。

なお、減損損失累計額については、改正後の財務諸表等規則に基づき当該各資産の金額から直接控除しております。

個別損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	前事業年度 2004年4月1日~2005年3月31日	当事業年度 2005年4月1日~2006年3月31日
売上高	79,970,015	88,251,762
売上原価	55,787,766	61,682,867
売上総利益	24,182,248	26,568,894
販売費及び一般管理費	11,906,358	14,071,454
営業利益	12,275,890	12,497,439
営業外収益	289,650	350,637
営業外費用	252,956	11,906
経常利益	12,312,584	12,836,170
特別利益	346,283	364,023
特別損失	461,240	621,569
税引前当期純利益	12,197,626	12,578,624
法人税、住民税及び事業税	5,354,480	6,120,130
法人税等調整額	121,863	△476,119
当期純利益	6,721,283	6,934,613
前期繰越利益	1,085,219	1,313,502
中間配当額	694,000	694,000
当期末処分利益	7,112,502	7,554,115

利益処分計算書

(単位:千円)

科目	前事業年度 2005年6月29日	当事業年度 2006年6月28日
I 当期末処分利益	7,112,502	7,554,115
II 利益処分額	5,799,000	5,799,000
1. 配当金	694,000	694,000
2. 役員賞与金	105,000	105,000
(うち監査役分)	(3,000)	(3,000)
3. 任意積立金		
別途積立金	5,000,000	5,000,000
III 次期繰越利益	1,313,502	1,755,115

株式状況

発行可能株式総数	1,388,000株
発行済株式総数	347,000株
株主数	11,849名

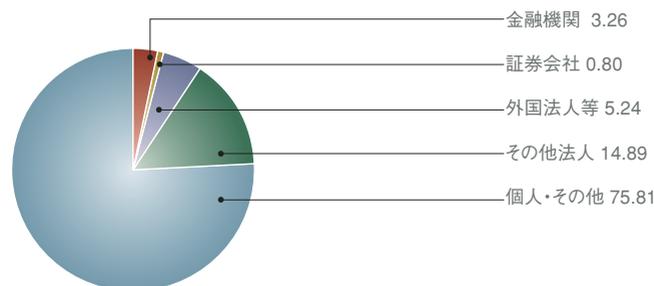
大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
山本 英俊	112,200	32.33
山本 剛史	40,000	11.53
山本 洋子	35,000	10.09
サミー株式会社	27,500	7.93
有限会社ミント	16,000	4.61
山本 優希	5,000	1.44
日本証券金融株式会社	4,315	1.24
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク	3,330	0.96
フィールズ従業員持株会	3,082	0.89
アイルランドスペシャルジャスティック レンディングアカウント	2,704	0.78

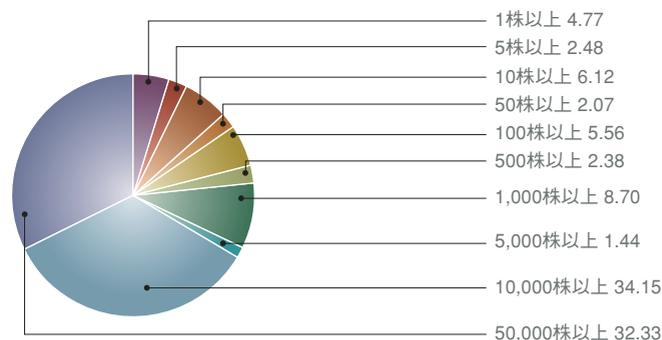
新株予約権の発行について

	行使期間	新株予約権数	行使価額	行使率
第1回 新株予約権 (2003年6月27日発行決議)	2005年7月1日～ 2008年6月30日	604個	760,000円	—%
第2回 新株予約権 (2005年6月29日発行決議)	2005年8月1日～ 2008年6月30日	1,610個	760,000円	—%

所有者別分布状況(%)



所有株数別分布状況(%)



会社概要

商号	フィールズ株式会社 (英訳名:FIELDS CORPORATION)
企業理念	「すべての人に最高の余暇を」
設立	1988年6月(1983年に東洋商事の名で事業を開始)
本社所在地	〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー12階
事業内容	1)遊技機の企画開発 2)遊技機の仕入、販売 3)キャラクター、コンテンツの企画開発、販売 4)映像ソフトの企画開発、販売
資本金	79億4,803万円
従業員数	901名(連結)
連結対象会社 (3月31日現在)	フィールズジュニア株式会社 株式会社デジタルロード ホワイトラッシュチャームズジャパン株式会社 ジャパン・スポーツ・マーケティング株式会社(注1) 株式会社ディースリー・パブリッシャー(注2) 他4社

(注)

- 2005年7月、子会社化したジェイ坂崎マーケティング株式会社は、2005年10月をもってプロフェッショナル・マネージメント株式会社とトータル・ワークアウト株式会社と経営統合いたしました。統合後はジャパン・スポーツ・マーケティング株式会社として、連結対象会社となっております。
- 株式会社ディースリー・パブリッシャーは、2006年4月より持株会社である「株式会社ディースリー」に移行いたしております。

当社ホームページのご紹介

業績情報やプレスリリースなど、最新の情報を随時発信しています。
ぜひご活用ください。



TOPページ

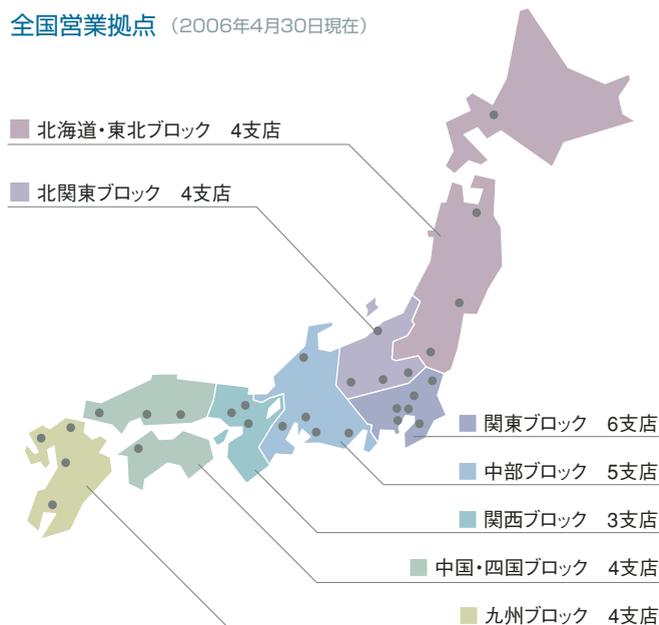
TOPページアドレス
<http://www.fields.biz>



IRページ

IRページアドレス
<http://www.fields.biz/ir/j>

全国営業拠点 (2006年4月30日現在)



熊本支店オープンのお知らせ

営業体制強化を目的に全国30支店目となる「熊本支店」を開設いたしました。
ショールーム機能をこれまで以上に充実させ、熊本地域における情報発信源として、企画提案サービスを行っていきます。



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場証券取引所	JASDAQ
公告方法	電子公告掲載URL http://www.fields.biz (事故、その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。)

お知らせ

株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、上記株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

0120-244-479 (三菱UFJ信託銀行本店証券代行部) (通話料無料)

0120-684-479 (三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部) (通話料無料)

インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。



フィールズ株式会社

〒150-0044

東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー12階

お問い合わせ先 ir@fields.biz